

みどりとて

樹木のふしぎ／アジサイ

みどり探訪／三泉淵緑地

特集／杉並区みどりの基本計画を改定しました

みどりの窓／新しい公園 みどりのイベント

緑の歳時記／「ハクサイ(白菜)」

園芸ワンポイント／家庭果樹のたのしみ

ブルーベリーの育て方

ガクアジサイ

カシワバアジサイ

☆花のように見える部分は？

私たちが花だと思っている部分の多くは、実は「装飾花」と呼ばれるがくが発達したものです。本当の花は中心部に小さく集まって咲いています。よく観察すると意外な発見がありますよ。

☆どのように利用されてきたのでしょうか

・観賞用として…

アジサイは梅雨の時期を彩る花木として、庭木や公園、寺社などに広く植えられてきました。

・文化・行事用として…

アジサイは初夏の風物詩として、俳句や和歌にも多く詠まれてきました。各地の「あじさい祭り」や寺院の植栽など、季節を感じる行事や景観づくりに欠かせない存在となっています。

・そのほかにも…

アジサイの枝は一定程度硬く緻密なため、仮止めの木釘やつまようじとして使われたり、また、身近な寄木細工の材料として使われたりすることもあったようです。

雨の日は、より鮮やかさを増すアジサイ。憂鬱な梅雨時期を、少し明るくしてくれる存在です。身近な場所で咲く花に目を向けて、季節の移ろいを楽しみたいですね。

樹木のふしぎ

アジサイ

アジサイ科／アジサイ属(ハイドランジア属)

☆どんな木でしょうか

日本に自生するガクアジサイをもとに改良されたものが多く、庭園や街路、公園などで広く親しまれています。落葉低木で、初夏に青や紫、ピンクなど色とりどりの花を咲かせます。

☆なぜ花の色が変わるの？

アジサイの大きな特徴は、土壌によって花の色が変わることです。酸性の土では青色に、アルカリ性の土では赤色に近づく傾向があります。同じ株でも、根が張っている場所によって土の性質がわずかに異なるため、花の色が変わることがあります。

梅雨の時期になると、街のあちこちで咲き誇るアジサイ。しっとりとした季節に彩りを添える、なじみ深い花木です。





杉並区みどりの基本計画を改定しました

みどりの基本計画とは、都市のみどりを守り、育て、未来へつないでいくための将来像や方針を示す「みどりの未来図」となる計画です。今後は、みどりの効果を区民・事業者・行政との協働で育み、発揮させ、未来へ継承することを目指しています。

将来像

みどりが暮らしの中に息づくまち 杉並
～みどりの力をみんなで育み未来へつなげよう～

I-2-3 地域に親しまれる公園づくり

I-1-1 地域で支える屋敷林等の保全



▲屋敷林

屋敷林等の支援に関わるボランティア活動について、参加のきっかけづくりや活動環境の整備を行います。



▲学校跡地を活用して整備したすぎはち公園

公園の不足地域を中心に身近な公園を整備します。

III-1-2 みどりの情報発信の充実



▲みどりの新聞「みどりとひと」

「みどりの新聞」等を通じて、みどりに関する情報を発信します。

みどりを活用した生きものの生息場所の創出

健全な水循環の促進

都市農地の保全強化

在来種の保全と外来種対策

公共施設でのグリーンインフラの推進

安心・安全な公園の維持管理

助成制度等を活用した緑化の推進

地域で支える屋敷林等の保全

環境学習の充実

みどりのベルトづくりの推進

みどりのリサイクルの推進

生物多様性に配慮したみどりの保全

良好な景観づくりの推進

法制度を活用したみどりの保全

樹木を健全に保つための管理

区民ニーズに応える公園のリニューアル

みどりのボランティア活動への支援

地域に親しまれる公園づくり

みどりの相談所の運営

II-1-1 公共施設でのグリーンインフラの推進



公共施設（学校、公園、道路など）でグリーンインフラの活用を積極的に進めます。

▲富士見丘小学校のビオトープ

III-2-1 みどりのボランティア活動への支援



▲ボランティアによる花壇づくりの様子

区とボランティア団体が協働して公園やみどりの維持管理に携わっていきます。

各取組とその詳細は、区公式 HP の「杉並区みどりの基本計画」をご覧ください。



みどりの
相談所の
先生に聞く

園芸ワンポイント

指導：小林幹夫先生

みどりに関する相談は
塚山公園 みどりの相談所
☎03-3302-9387

杉並区下高井戸5-23-12
毎週日曜日(第5日曜日を除く)
午前9時30分～正午、午後1時～4時30分



家庭果樹のたのしみ ブルーベリーの育て方



夏の日に次々と熟す、青紫色の小さな果実が清涼感をもたしめてくれるブルーベリー。

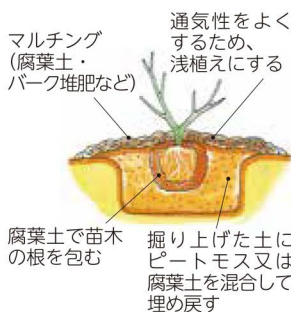
春には白い釣鐘状の小花が楽しめ、秋の紅葉も美しく、花、果実、紅葉の三拍子そろった、魅力的な果樹です。

＊栽培のポイント

- ・栽培種は、ノーザン・ハイブッシュ系、サザン・ハイブッシュ系、ラビットアイ系の3種類で、同じ系統内の異なる品種を2品種以上植えます。
- ・水はけと通気性がよく、やや湿り気のある土を好みます。
- ・ブルーベリーの根は細く、土壌表面近くに広く分布する傾向があるため、土壌の乾燥を嫌います。
- ・吸収する窒素成分としてアンモニア態チッソ（硫酸など）を好みます。

1. 植えつけ

植え付けは、12月上旬から3月上旬に行います。植え穴は直径40～50cm、深さを30～40cmとします。ハイブッシュ系は、pH4.3～4.8の土壌が生育に適するため、酸性用土資材のピートモスを掘り上げた土と同量、混合します。ラビットアイ系は、pH4.5～5.5の土壌が生育に適するため、掘り上げた土と同量の腐葉土を混合します。混合用土は植穴に埋め戻し、盛り土状になった中央に再度、苗の根の容積に合わせて植え穴を掘り、浅植えになるよう植えつけます。



2. マルチング

腐葉土やワラを株元に敷くマルチングによって、夏季高温期の土壌乾燥の防止、雑草発生の抑制、冬季の地温低下による寒害防止の効果がります。日照量の少ない場所では、マルチングで日射による地温上昇を妨げるため、3月の植え付け直後は3～4cm程度の厚さにし、5月上旬以降に10cm程度にします。

＜栽培カレンダー＞

植え付け		剪定		摘花 人工授粉	追肥		収穫		礼肥	植え付け (3月上旬までに行う)	
1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
		春肥				病害虫防除				寒肥	

3. 施肥

植え付け1か月後から、ひと月に1回、酸性肥料の硫酸を1株に5～6g与えると成育旺盛になります。2年目以降は、12月に油かすと骨粉を混ぜた有機質肥料、もしくは緩効性の化成肥料を、3月に速効性の化成肥料や硫酸を与えます。

4. 水やり

「ブルーベリーは水で育てる」と言われるくらい、土壌の保水性の良さが生育には必要です。地植えの場合、植え付けの時にたっぷりを与え、あとは必要に応じて与えます。鉢植えの場合、冬は土の表面が乾いたら軽く、春から夏にかけては鉢底から水が流れ出るくらいたっぷり与え、高温乾燥時はマルチングをします。
(2. マルチング参照) 実がなっている木を乾燥させると、果実がしぼんで落ちてしまうので、夏場は朝と夕の2回水やりをします。

5. 病害虫

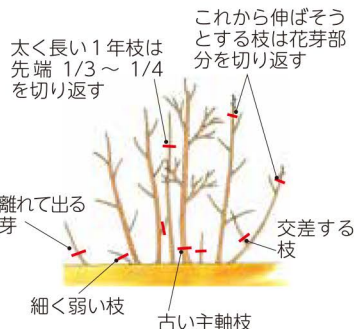
特に問題となる病害虫はありませんが、栽培を始めて数年すると被害にあうことがあります。主な害虫は6月のコウモリガ、8～9月にイラガやミノガの幼虫、カイガラムシ類などがあげられます。

6. 剪定

株仕立てが基本となり、1株当たり主軸枝を5～8本仕立てにします。株の中心から外に向かって枝が伸びていくようにし、ほかの枝と重なることがないように気を付けます。なお、主軸枝は古くなると徐々に収穫量が減るため、6年程度で根元に近い部分から出た新梢の上で切り返し、更新します。

剪定は12月～3月に行います。枯れ枝、古くなった主軸枝、株元の細く弱い枝、株元から離れて出る芽、交差しあう枝、内向きの枝は元から剪定します。

1年枝で太く長いものは主軸枝候補となるので、先端1/3～1/4で切り返します。また、これから伸ばそうとする枝は切り返して花芽部分を除いておきます。主軸枝をロープで誘引することも適宜行い、樹形をつくっていきます。



7. 収穫

果皮全体が着色した果実から収穫していきます。果柄周辺が赤いものは酸味が強いので、生食、また加工用としても様々な利用法があります。

編集後記

「みどりとひと」はみどりの
ボランティアと協働で
編集しています。

三泉淵緑地育て組の方々が力を合わせ活動が続けられている姿にふれさせていただき、皆さんとても熱心で大変感動いたしました(原)

“みどりとひと”の取材先や観察会で植物に関するいろいろなお話を聞いてきました。楽しくてその都度、なるほど!と思い、目からウロコだ!と感激するのですが、忘れるのは簡単、覚えるのは大変…困ったものです。(松)

三泉淵緑地の八重のアマナは大変珍しく、ぜひ見たいと思っていましたが、今年は見ることができませんでした。来春こそはぜひ!!(山)



みどりの新聞 みどりとひと186号 令和8年7月20日発行

編集／みどりのボランティア

編集・発行／杉並区都市整備部みどり公園課 〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1 ☎03-3312-2111

「みどりとひと」は区ホームページでもご覧いただけます。 <https://www.city.suginami.tokyo.jp/>

